

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 7 部門第 4 区分  
【発行日】平成 17 年 4 月 28 日 (2005.4.28)

【公開番号】特開 2003-324948 (P2003-324948A)  
【公開日】平成 15 年 11 月 14 日 (2003.11.14)  
【出願番号】特願 2002-133292 (P2002-133292)  
【国際特許分類第 7 版】  
H 0 2 M 3/28  
【F I】  
H 0 2 M 3/28 C

【手続補正書】  
【提出日】平成 16 年 6 月 17 日 (2004.6.17)  
【手続補正 1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0 0 0 8  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0 0 0 8】

ここで、直流電圧出力側の負荷を無限大～0 まで減らしていくと負荷に流れる電流が増加し、スイッチングトランジスタ Q 1 の ON デューティ（第 1 の一次側巻線 P 1 に発生する電圧の ON デューティ）が長くなっていく。そして、ある ON デューティの長さになると、トランジスタ Q 2 のベースは、フォトカプラ PC 1 が ON しなくても充電されるようになり、それによって、直流出力電圧が低下していく（図 6 の符号 A で示した点）。直流出力電圧が低下していくと、スイッチングトランジスタ Q 1 の ON デューティの電圧、つまり、第 1 の一次側巻線 P 1 に発生する電圧（図 5 の P 1 波形）の ON デューティの電圧が低下していく（図 5 の P 1 波形の一点鎖線で示した波形）。それによって、第 2 の一次側巻線 P 2 に発生する電圧（図 5 の P 2 波形）の ON デューティの電圧も低下していき（図 5 の P 2 波形の一点鎖線で示した波形）、トランジスタ Q 2 の負へのバイアス電圧（ベース - エミッタ間電圧）が浅くなっていった（図 5 の Q 2 V<sub>be</sub> 波形の一点鎖線で示した波形）、トランジスタ Q 2 が ON しやすくなっていく。したがって、直流電圧の出力特性としては、フォールドバックとなる。